

パフォーマンステスト「Welcome to Japan!」（第8時）

測る力	話すこと〔発表〕＋〔やり取り〕：日本のすてきを3点セット（季節と行事→できること→感想）で紹介し、質問に応じられるか（知識・技能／思考・判断・表現）
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で（待機イス1つ）。ポスターは朝のうちに黒板へ貼り、テスト席から指さして話す。30～40秒の紹介＋先生からの質問1～2つ。
ことばの条件	黒板の「3点セットの型」（Welcome to Japan. / We have ... in / You can / It's）は掲示したままでよい。活動シート2の台本を見ながらでもよい。絵カード（提示用1部）はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか（これが崩壊しない鍵）

グループ	やること	用意する物
A（テスト中の班）	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	活動シート2（台本）
B	ポスターに足す「もう1文（You can）」を考えて、活動シート2の台本の空きらんを書く	活動シート2（付せんがあれば付せんでも）
C	季節めぐりすごろく・延長戦（小声で・3点セットで言えたらボーナス）	活動シート1（盤）を班に2枚＝4～5人に1枚・サイコロ2つ・絵カード（班用）
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く（書けたら席でBと同じことをする）	振り返りカード（学校のもの）

1班終わるごと（9～10分）に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる（テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ）。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと（待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ）。終わった子は、聞かれたことを話さない――後の子が思い出しテストになる。ポスターは1グループ1枚なので、テストの日は朝のうちに全グループぶんを黒板に貼っておく。手元は活動シート2の台本――持ち歩かせないので取り合いが起きない。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

- 1 **Hello! I'm Anna. I'm from Australia. Please tell me about your poster.**
（ポスターを指して。アンナさん＝日本を知らない人になる。Welcome to Japan. は子どもの1行目）
- 2 **（児童の紹介 2～3文）**
We have ... in / You can / It's など
- 3 **Nice! What can I eat in Japan?**
（You can を1つ引き出す。食べものの以外の子には What can I see? に替える）
- 4 **Wow! Is it fun?**
（It's の感想を引き出す。Yes, it's fun. でも Yes だけでもOK）
- 5 **Thank you! See you!**
（お別れまでがテスト）

評価しないこと ポスターの絵のうまさ・色ぬりの丁寧さは評価しない（図工の評価と混ぜない）。a や the の抜け、月名の発音も減点しない。日本の行事にくわしいかどうか、その場所へ行ったことがあるかも無関係——「聞き手に伝えようとしているか」だけを見る。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場で する支援
知識・技能	We have ... in / You can / It's を3点セットの順に用い、季節と行事・で きること・感想を、聞き手に向けたひとつ づきの紹介として3文で伝えられる	支えの質問を受けな がら、We have ... または You can ... の文を1～2文言える	ポスターを指しながら単語 （sushi! / snow!）で伝えら れる→型の掲示を一緒に指 さして1文だけ再挑戦
思考・判断・表現	日本を知らない相手に伝わるよう、ポスター を指す・ゆっくり言う・言い直すなどの 工夫があり、What can I eat? などの質問 に内容の合う答えを返して、紹介を最後まで 続けられる	紹介したい内容に合 う語句・表現を選ん で伝えられる	質問と答えがずれる→質問 をゆっくりくり返し、絵カ ードを2枚見せて選ばせる
主体的に学習に取り 組む態度（単元 全体で）	「だれに伝えるか」を意識してポスターの 言葉を選び直し、発表の練習をくり返すと ともに、聞き手のときも質問を1つ自分か ら返そうとする姿が見られた	グループの活動に参 加し、振り返りに手 ごたえが書かれてい る	→振り返りの視点を一緒に 選ぶ（「どのグループのポ スターが行ってみたいくなっ た？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】グループのポスターを指しながら、We have ... in と You can を正しく使い、感想の It's まで加えて「Welcome to Japan!」の3文を紹介することができました。

【知技・b】ポスターの台本の（ ）をうめる活動を重ね、We have ... in の in のあとに季節を入れる形をつかみました。ことはバンクから語を選べば、You can の文も自分でつくることができます。

【思判表・a】日本を知らない人に伝わるかを考えながら、ポスターの絵を指し示し、ゆっくり言い直して発表しました。相手に合わせて話し方を選ぶ姿が、日本のすてきポスター発表の場面によく表れていました。

【思判表・b】日本に興味をもってもらうには何を伝えるとよいかを考え、グループの季節に合う行事とできることを選びました。We have ... in と You can の2文が、聞き手に向けたひとつづきの紹介になっています。

【態度】発表の順番をグループで相談し、「You can」の文をもう1つ増やそうと付せんに書き足しました。ポスターづくりの間、より伝わる紹介にしようと工夫を重ねています。

【態度】聞き手として Nice! や Really? の反応を返すことを大切にし、発表を聞くたびに質問を1つ考えて伝えようとしていました。伝えることと受け取ることの両方を楽しんでいます。

【はげまし型】We have ... in の1文を、ポスターの台本を見ながらはっきり言えるようになりました。ことはバンクから語を選んでポスターに書き入れた時間が、そのまま自信につながっています。

【接続型】中学校では、日本の文化や行事を英語で伝える場面が何度も出てきます。季節と行事・できること・感想の3文で組み立てた今回の紹介が、そのときの確かな足場になります。

【発展・★3】日本のすてきポスターの発表では、3点セットの3文に、その季節をすすめたい理由が伝わる You can をもう1文自分で加え、4文をひとつづきの紹介にまとめ上げました。

書き方の型 ①活動名（具体）②できるようになったこと（評価規準のことは）③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよい——②や③から書き出すと、同じ子に同じ文型が続かない。旅行の経験や家庭の行事には触れない（家庭状況への言及になり得るため。「伝え方」の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。